

第1回池田町地域創生有識者会議（平成27年6月23日開催） 議事録

（岡崎町長）

上乘せ交付金の申請があるため、どうしても平成27年10月までには、完成しなければならない。10月に完成ということになりますと、8月までにはだいたいの形をつくらなければならない。それを5年10年かけて検証しながらやっていく必要があり、皆様方には、お時間いただきまして、検証のお願いもしたいと考えています。

皆様には、後ほど自己紹介していただきますけども、町内、あるいは、学術関係の方を含めてたくさんの方に入っていただいておりますので、池田町はこういった魅力がある、こういったことした方がもっといいのではないかと、というお話がでてくることを楽しみにしています。皆様のご意見が池田町にとって、大変実りのある内容になっていく、そういう思いがありますので、これにてご挨拶にかえさせていただきます。よろしくお祈りします。

（小川企画課長）

ありがとうございました。本日は株式会社 JTB 中部の長野部長様が欠席ということで、地域交流プロジェクト営業推進課長である松山正樹様に代理でご出席いただいております。

それでは、委員の委嘱に移りたいと思います。町長から皆様へ委嘱をさせていただきます。石田尚様、岩谷真海様、馬田泰州様、遠藤誠様、勝野孝子様、加藤拓様、国枝磨須美様、小林月子様、高崎正之様、竹中行雄様、富樫幸一様、中澤昌弘様、長野隆様、松岡政美様、松本修治様、お願いいたします。

（委嘱式終了）

ここで、お一人ずつ自己紹介を順番にお願いします。

（大垣共立銀行 石田）

初めまして、私、大垣共立銀行池田支店長の石田でございます。今日は大変お世話になりました。ありがとうございます。ちょうど1年3ヶ月ほど池田支店に赴任してまいりまして、池田では様々なことがありました。

大垣共立銀行には、地方創生の取組として、地方創生センターを支店部内に新設しまして、この中で本部の各部署のメンバーが集まって、各自治体の問題解決に向けた支援を行ってまいります。微力ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

（池田町議会 岩谷）

池田町議会の岩谷でございます。地方創生元年ということで、我々の方としましてもい

ち早く 3 月議会で地方創生特別委員会を立ち上げさせていただいて、色々な形で議論させていただいているところです。この有識者会議も開きまして、また、色々なご意見を吸い上げさせていただいて、議会、そして町民の鋭気を損なわないように、頑張っていきたいと思しますので、よろしくお願いします。

(岐阜新聞 馬田)

岐阜新聞・岐阜放送揖斐支局長の馬田と申します。本年5月に揖斐の担当になって2ヶ月経ちます。池田町は自然豊かでいいところだと思います。池田町ならではの魅力ですとか、県内様々なところ取材した経験を活かして、何か意見を出すことが出来ればと思います。よろしくお願いします。

(農業者 遠藤)

認定農業者の遠藤誠と申します。百姓がこういう気むずかしい場に出てよいものかと思いますが、今日はよろしくお願いします。

(女性セミナー 勝野)

池田町女性セミナーの勝野でございます。池田町女性セミナーは、女性の学習と交流の場として発足し、今年で19年目を迎えます。現在は80名の会員がおります。また、毎月学習後会報を発行し、行政、地域の公民館、学校等で読んでいただいております。よろしくお願いします。

(中日新聞 加藤拓)

中日新聞揖斐川通信部の加藤と言います。皆様、日頃大変お世話になっております。私は赴任したのが2012年ですので、3年4ヶ月になります。最初の赴任地は石川県金沢で、2カ所目が静岡県の浜松、3カ所目がこちらになります。出身が愛知県知多市ということで、完全によそ者なのですけれども、実は母親が岐阜の人間でして、半分は岐阜県の血が流れているということで、何卒よろしくお願いします。

(池田町教育委員 国枝)

失礼いたします。池田町教育委員の国枝磨須美でございます。よろしくお願いします。池田町は、本当に自然が豊かですし、それから、歴史もありますし、文化もございます。こういうすばらしい環境のなかで、子ども達に健やかに育て欲しいという、そういう願いを持っております。お願いいたします。

(サンブレッジ 小林)

サンブレッジ国際医療福祉専門学校学校長の小林月子でございます。岐阜大学でも、社

会学の方で講師をさせていただいた経験があります。こちらにきて2年目ですが、豊かな自然や、すばらしい人材が多くいる、池田町の魅力にとりつかれております。本当にこの池田町の魅力を伝えたいと思っていて、全国から、本当は世界からと言いたいところですが、まずは国内から、ここに住みたい、働きたいという町をつくりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(池田町区長連合会 高崎)

池田町区長連合会会長の高崎でございます。地域創生は、いずれにしましても非常に大変な仕事であると拝察しております。そのお手伝いの末席を汚させていただくこと、立場ある中で、誠に早急のことを共にやっていっていきたく思いますので、よろしくお願いいたします。

(民生委員 竹中)

池田町民生児童委員協議会の会長を仰せつかっております、竹中です。民生委員になりまして8年目でございます。やっと民生委員になってよかったと思えるようになりました。メンバーに加えさせていただくなかで、何かできれば幸いだと思えます。

(岐阜大学 富樫)

おはようございます。岐阜大学の富樫と申します。先程の小林先生の隣の地域科学部というところに所属しています。岐阜市の方でまちづくり関係の活動をさせてもらっているのですが、今回声をかけていただき、参加させていただきました。

今日は養老鉄道に乗って来ました。実は、車に乗れないもので、それで、町中を少し歩いて来たのですが、おばあちゃんと会ったら、いきなり挨拶されまして、良い雰囲気町だと思いました。よろしくお願いいたします。

(養老鉄道 中澤)

養老鉄道株式会社の鉄道営業部長の中澤と申します。日頃は養老鉄道の運営にご協力いただきありがとうございます。残念ながら養老鉄道の輸送人員の減少が続いておりますが、私共は、地域公共交通機関であるとともに、観光事業にも力をいれております。また、本日の会議に置きましたは、当社の公共交通機関という立場で協力させていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(JTB 松山)

おはようございます。JTB 中部の地域交流プロジェクトの松山と申します。本日長野の代理ということで出席させていただいております。私共 JTB は旅行業ですが、交流分化産業への脱皮として、交流文化部という形で地方創生事業に携わっています。全国の人々が

ある町へ訪れるようになる着地型の事業をさせていただいております。どうぞよろしくお願いいいたします。

(商工会 松岡)

おはようございます。商工会長の松岡でございます。商工会としては、今年度から、地方創生事業ということでプレミアム付き商品券等に関わらせていただいております。商工会は地方の商工事業者のための支援機関でございます、国の施策を色々活用しながら今努力をしているところでございます。地方を元気づけるために、池田町の皆さまと一緒に先を考えて行くということに関して、私達も一緒になって考えていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいいたします。

(工場会 松本)

皆さまおはようございます。池田町の工場会の幹事を仰せつかっております、サシヒロ株式会社の松本でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。地域創生の創生という言葉は、初めて作るということで、この世の中で一番難しい事をやっていくということとっております。自分自身は、生を受けてから自分の経験したこと、今まで見てきたことが少しでも池田町のために、国のためになればと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

(小川企画課長)

企画課の小川と申します。本日のこの地域創生有識者会議をはじめ、地域創生に関する事務局を担当しております。いろいろお世話になりますがよろしくお願いいいたします。

(早田理事)

同じく、池田町役場理事の早田清宏と申します。本日は皆さまお集まりいただきありがとうございます。みなさまの議論が、形になるように、我々事務方も精一杯努力してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

(牛嶋副町長)

副町長の牛嶋でございます。池田町も人口減少が始まっております。職員も池田町の魅力作りに、精一杯がんばってはおりますが、やはり職員だけというのは限界があると思っております。こうして多方面の知識を持った方が集まられまして、これからいろんな知恵を出していただきまして、我々の魅力あるまちづくりに少しでも協力していただけることをお願い申し上げます。よろしくお願いいいたします。

(小川企画課長)

それでは、次に移りたいと思います。次に池田町地域創生有識者会議設置要綱ということで資料2をご覧ください。また、最後に池田町地域創生推進本部設置要綱を参考につけさせていただきます。

池田町では、人口減少、少子・高齢化社会の課題に対し、将来にわたり活力ある地域社会の創生を推進するため、「池田町地域創生推進本部」を設置いたしました。そこで、地域創生を推進するにあたり、皆様方からご意見をいただくため、この「池田町地域創生有識者会議設置要綱」を設けました。

第2条をご覧ください。1つめにつきまして、人口ビジョンおよび地方版総合戦略の策定に関する事、2つ目に総合的な施策の企画及び推進に関する事、そして、その他目的の達成のために必要な事項に関する事についてみなさまにご意見をいただきたいと思っておりますので宜しくお願いします。なお、詳細につきましては協議の中で説明させていただきたいと思っております。

この要綱について、ご意見があればお伺いしたいと思います。

<委員から意見なし>

それでは、この要綱に基づきまして、今後進めてまいります。次に、今後この会を進めるにあたり、座長の選出ということで、この要項に基づきまして、座長を選出させていただきたいと思っております。要項に基づきまして、町長の指名とさせていただきますのでよろしく宜しくお願いします。

(岡崎町長)

この要項は、こちらでつくったものでありますが、第4条に町長が指名するとあります。私のほうから指名させてもらってよろしいでしょうか。

<委員から異議なし>

それでは指名させていただきます。今後、この会議は議会等の関係がありますので池田町議会議長の岩谷真海様を指名させていただきますがよろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは岩谷様よろしく宜しくお願いします。

(小川企画課長)

岩谷様、正面の方へお願いします。ここで大変申し訳ございませんが、町長公務が重なっておりますので退席させていただきます。それでは、引き続き進めてまいりたいと思っております。それでは岩谷様、ご挨拶をお願いしたいと思います。

(岩谷座長)

座長を仰せつかった議会の岩谷でございます。今日は有識者会議ということで産官学それから金融、労働、そしてメディアの方々にご参集いただくなかで、その地域の特性を出

していただけるように頑張りたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。今後、住民ワークショップで意見を積み重ねていただき、それらを職員が中心となり意見を集約、そして私どもが意見を受けた議論を重ね、そして、議会に報告しながら、地域創生推進本部で決定するという段取りですので、よろしくお願いします。この会は、3回ほどを予定しております。どうかよろしくお願いします。

(小川企画課長)

ありがとうございます。それでは、これからの進行につきまして、よろしくお願いします。

(岩谷座長)

それでは、座って進行させていただきます。議題1にある池田町版総合戦略等の策定について、事務局より説明をお願いします。早田理事。

(早田)

はい。それでは資料3から6について説明をさせていただきます。そもそも地方創生を何故やっていくことになったのか。池田町地方創生はどのように進めていくのかを説明させていただきます。

【まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」パンフレット】

参考資料にあります「まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」」をご覧ください。内閣官房まち・ひと・しごと創生本部が作成したものです。パンフレットの1ページ(2)をご覧ください。

今回の地方創生は大きな目的が3つございます。1つめは、人口減少に歯止めをかけること、2つめは東京への人口集中を抑制すること、3つめは、国・全国一律の処方箋ではなく、地域に即した処方箋が必要だということです。

では、地方創生とは、具体的に何を行っていくかというところですが、2ページの(4)をご覧ください。地域に応じた処方箋というのが「地方人口ビジョン」「地方版総合戦略」となります。池田町ならではの「人口ビジョン」「地方版総合戦略」の策定が当面の目標となります。ただし、ただ戦略をつくれればいいというものではありません。池田町ならではの目標・数値を設定し、その目標達成に向けて実行していく。実行して行く過程で仮に目標の達成に至らなければ改善をしていくという、計画を策定した後の行動が重要になってくるものであります。

【資料3 池田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定】

では、池田町ではどのように進めていくかについて、資料3を使って説明させていただきます。

きます。6月から10月までのスケジュールが書いてある図をご覧ください。

冒頭、町長から挨拶がありましたとおり、平成27年度予算で上乗せ交付金というものがあります。国から1市町あたり3000万～5000万円の補助金があるもので、その条件として10月までに、ある程度、戦略を形作っていくことが必要になります。8月にこの交付金の申請締め切りが迫ってまいりまして、8月には池田町はどんな事業をやりたいのか、主要な2～3の事業だけでも決めていきたいと考えています。

地方創生、地方活性化をするということは、つまるところ、住民の福祉の向上にあります。このため、事業の決定にあたっては、少しでも多くの方の意見をお聞きしながらまとめていきたいと考えています。石破大臣からも産官学金労言の皆様のご意見を良く聞くことが必要だと言われていました。また、20代30代の女性目線も大切だと言われていました。ですから、池田町ではこのような有識者会議とあわせて、住民ワークショップ「アイデア工房会議」、「池女会」を開催します。

アイデア工房会議とは、老若男女住民の方が集まって、教育や福祉、観光や産業について幅広く自分の関心のあるテーマについて話し合う場です。池女会とは、20代・30代・40代の女性が集まりまして、女性ならではの視点でどうしたらまちが住みやすくなるか、どんなまちにしていけば安心して、結婚や子育て、出産や仕事も両立できるのか、こうしたことについてのご意見を聞く場でございます。

今日は、皆様と最初に、教育や福祉、産業や観光についての皆様からのご意見を聞きまして、6月27日・28日から開催されるアイデア工房会議、池女会に生かしていきたいと考えています。

アイデア工房会議、池女会は各5回開催します。最初の3回では、課題の整理分析、どうしたらそれが解決できるのか、ではどのようなところから取り組んでいけばいいのかについて話し合います。そうしますと、大体8月には、池田町ならではの事業が見えてきます。それを8月上旬に予定する有識者会議にて、皆様にお諮りさせていただきたいと考えています。その後、ワークショップの4回目、5回目で、その事業をどういう計画で実施していくかを話し合っていきます。最後、これらの意見をまとめ、9月に、素案として有識者会議にお諮りさせていただき、最終案をまとめていきたいと考えています。

【資料4 総合戦略策定までの流れ】

資料4をご覧ください。ワークショップ、役場内に設置して計画策定委員会・各部会、有識者会議・議会、そして町長が本部長となる地域創生推進本部、それぞれの役割について整理したものです。岩谷座長からお話があったように、ワークショップでは、町に対する意見を出すことが大きな役割です。その意見を、役場職員が事業案に結びつけていきます。それぞれの分野の専門家、実績を積まれた有識者会議の委員の皆様には、出てきたアイデアを形にしていくことに対して助言をいただきたいと考えています。更に、作った計画が最初から全てがうまくいくとは限らないため、目標達成をしているか否か、改善すべき点

があるかないかについても助言をいただきたいと考えています。そして、完成した計画については、最後、町として意思決定します。

【資料5 ワークショップの進め方】

資料5をご覧ください。ワークショップの実施イメージについて説明させていただきます。この課題ツリー、仮説ツリーという考え方は、日本が被援助国に対して、どのような支援をすればよいかという話し合いをする際にも用いられています。

「自転車事故頻発の課題ツリー」をご覧ください。ワークショップでは、住民の方々から様々な課題が挙げられることが予想されます。例えば、自転車事故が多いという課題があがったとします。ではどうして自転車事故が起こるのかと考えたときに、自転車が故障を起こしやすいのか、乗り手がルールを守っていないのか、道路に問題があって運転しづらいのではないのかという原因があげられます。更に乗り手がルールを守らない場合、中年女性のマナーが悪いのか、小中学生のマナーが悪いのかというように様々なケースが想定できます。更に小中学生のマナーが悪い場合、学校での教育に問題があるのか、家庭での教育に問題があるのかというように、因果関係を細分化していきます。

次に、「自転車事故頻発の仮説ツリー」をご覧ください。課題ツリーを逆の視点から見たものでございます。自転車事故の減少を目指すために、故障しにくい自転車が開発される、乗り手がルールを守る、自転車専用道路を整備するが挙げられ、これを達成するためのプロジェクトの実施に繋がります。

仮説ツリーを作成した後、達成すべき目標、重要業績評価指標（KPI）、指標を達成するための事業、更に事業実施のために連携する団体・個人を一覧としてまとめます。これを総合戦略に繋げていきます。

【人口分析について】

最後に、池田町の人口分析について説明させていただきます。池田町の総人口は、2010年をピークに減少傾向に転じました。2010年から2040年にかけての総人口の減少幅については、国が-16.2%であることに對し、池田町は-11.3%であり、減少幅が小さいと言えます。これは、2040年まで、老年人口が増え続けることが影響していると考えられます。しかし、2040年以降は、老年人口も減少傾向に転じます。これにより、2040年以降は人口減少が加速化し、2060年には18,622人まで減少すると推計されています。

また年少人口については、2010年は3,929人でしたが2060年には1,906人、つまり約半分になると予想されています。これは池田中学校が、現在1学年8学級ありますが、2060年には1学年4学級になることを意味します。また、町内の保育園、小学校が廃園、廃校になる可能性もあります。

これに歯止めをかけるための人口増の考え方について説明します。人口増は、自然増と

社会増の2通りが考えられます。自然増は、出生数の増加と死亡数の減少に分類されます。さらに、出生数の増加は、既婚者がもう一子以上産むか、独身者が結婚するかで分類されます。死亡数の減少については、高齢者が元気で長生きするか、将来結婚、出産の可能性のある30代以下の不慮事故を減らすかに分類されます。

次に社会増については、町内を対象に転出抑制を目指すか、町外を対象に転入促進を目指すかに分類されます。転入促進については、どのような方に転入していただきたいか、ターゲットを絞ることが重要です。家を購入する人にターゲットを絞るか、賃貸する人にターゲットを絞るかに大きく分類されます。さらに、独身なのか既婚なのか、既婚であれば、夫婦いずれか一方が働いているのか、共働きなのか。さらには、子どもがいるのかいないのか。子どもがいる場合、その子どもが幼稚園児なのか、小中学生なのか、高校生なのかがあります。

ターゲットの絞り方によって、町としての施策が異なってきます。例えば、家を購入する方にターゲットを絞るのであれば、空き家情報を提供する、空き家の住宅改修費用を助成するといった事業が考えられます。

1枚おめくり下さい。池田町の場合、自然増減と社会増減どちらの方が人口減少に影響が大きいのかを表しているグラフです。左側が自然増減についてのグラフ、右側が社会増減についてのグラフです。2005年までは出生者数が上まわっていました。しかし、2006年以降、死亡者数がどんどん増えてきており、2014年には、亡くなる方が58人多いという状況です。

社会増減につきましては、2008年までは転入する方が多い年が続いておりました。しかし、2009年以降は転出する方が多くなってきています。

池田町の場合、自然減と社会減のどちらがより影響があるのかと申しますと、現在は自然増減の方が多いということがわかります。

次に、自然減について、独身の方が多くて子どもが少ないのか、結婚して子どもを出産していないのか、原因を分析しました。

合計特殊出生率について見ますと、平成20年から平成24年において、全国では1.38、岐阜県では1.49、池田町では1.53でした。つまり、池田町は子どもを産んでいる方が多いということになります。しかし、要注意なのは、平成25年は生まれる子どもが少ない年として、1.40と池田町は、全国平均を下まわっております。

次に結婚について分析します。池田町の婚姻率（人口1000人に対して結婚した件数の割合）は、全国、岐阜県、西濃地域よりも低いです。

離婚率について見ますと、池田町は全国、岐阜県、西濃地域よりも低いです。ここから、池田町は結婚する方が少ない、ただし結婚したら子どもを産む方が多く、離婚する方が少ないという特徴が分かります。

最後に社会増減について、2014年の状況の分析結果を紹介します。

池田町に転入してくる方は、大垣市、揖斐川町、岐阜市、瑞穂市、神戸町、北方町、垂

井町、大野町と西濃、中濃地域が大半を占めます。では、転出はと申しますと、大垣市、揖斐川町、名古屋市、神戸町、岐阜市、瑞穂市、一宮市、大野町、本巣市、垂井町となります。主にJR沿線市が大半を占めます。東京や大阪に転出するというイメージがあると思いますが、池田町はそれほど多くはなく、大垣、岐阜、名古屋で人口がストップしている、ある意味、歯止めがかかっているといえます。以上でございます。

(岩谷座長)

説明が終わりました。皆さまのご意見をここでお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。特に人口分析につきましてご意見いただきましたら、お願い申し上げます。

我々議会でもこの説明を受けたときに、本当に愕然としました。本当にこんなことになるのかと、池田町でもこんなことになるのかということで、大変驚いたことですが、いかがでしょうか。

(岐阜新聞 馬田)

合計特殊出生率の母数は何の数字なのか、教えていただきたい。

(早田理事)

合計特殊出生率の母数は、母ということであります。詳細については、確認して回答させていただきます。

(岩谷座長)

他によろしいですか、なければ、次の議題に移りますが、はい、それではないということで、議題2、各分野における現状と課題について議題とします。席の配置換えをしますので、5分位休憩といたします。よろしく申し上げます。

<休憩>

(岩谷座長)

事務局より、現状と課題につきまして、「教育・福祉」「産業・観光」の2つについて、テーマ毎に説明いただいた後に、各15分程度3つのグループに分かれて議論していただきます。各グループに事務局より1名入り、書記をつとめさせていただきます。その後、各グループの代表者が議論をまとめて、報告していただきます。代表者は、Aグループは小林月子先生、Bグループは富樫先生、Cグループは勝野孝子さんに、よろしく申し上げます。

まず、「教育・福祉」について、事務局より説明願います。

(早田理事)

池田町で5年前に作りました第五次総合計画より、「子育て・教育」、「医療・福祉」の目標値を抜粋したデータを用意しました。

まず、「子育て・教育」の状況でございます。子育ての指標では、子育てをされていてイライラすることがよくある人の割合、困ったときに相談する人がいる人の割合において、平成21年から平成26年に比較した時に、大きな減少が見られます。教育の指標では、地域の子どもに注意をしたことがある人の割合、地域の人に叱られたことのある子どもの割合の数値の減少が見られます。また、図書館の利用回数や地域のイベントが楽しいと思っている子どもの割合、身近で目標とする大人がいると思っている子どもの割合についても減少が見られます。

次に「医療・福祉」の状況です。福祉の指標では、特に年金に対する不安が多いというのが、現状でございます。老後の生活の保障、生き甲斐を持って生活している高齢者の割合が平成21年から平成26年で比較をして減少しています。医療については、特段大きく減少した数値はございません。ただ、朝ごはんを毎日食べている小中学生の割合が平成21年から比べると5%減っています。

皆様におかれましてはこれにとらわれず、これまでのご経験や、お立場からのお考えや、こういうことをもっと調べてみたら良いのではないかと、これは一体どうなっているのだろうか、これはこうしたほうが良いのではないかと、と自由にご議論いただければいいのではないかと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

(岩谷座長)

説明が終わりました。早田理事の説明を踏まえまして、これより3つのグループにわかれまして議論をお願いします。各グループの代表者で進行をお願いします。

(グループでの協議)

○子育て

- ・今、町の政策は、「子どもは町の宝である」という観点の下で、子育ては家庭だけではなく、学校だけではなく、そして地域を含めてこの3つが輪になって共同して子育てをやっているということをかかげている。(岩谷)
- ・18歳までの子育てに関しては、けがをしても病気になっても医療は無料だという形の中で、まずは若い親の方々にご負担をあんまりかけないような施策でやっていると、今、池田町で進めている。これからもっと自然増をなんとか目指していかないと、社会増そちらの方では見込めないと考えている。(岩谷)
- ・不審者等の問題により、大人と子どもが気軽にふれあえないという現状があり、もっとおらかな育て方ができないか。(岩谷)
- ・家族のありかたを考えないとだめ。孫をしかれない大人が増えてきている。(岩谷)
- ・人口が増えるだけじゃなくて、子どもの数が増えるだけじゃなくて、質のいい子ども、

質のいい家庭、安心して能力をいかそうとする意欲的な子どもや親が増えていかないといけない。(小林)

- ・子育てや教育では、なかなか困った時に相談する人がいない。(小林)
- ・家庭の状況にもよるし、経済環境にもよる。お互いにみんなほとんど共稼ぎが多い。難しい問題だ。(遠藤)
- ・核家族のひずみを解消できるのか。親、子ども、祖父母、家族がばらばらになってしまっている。大家族だったら経済的にも助け合っている。都会には貧困でも生きていける措置がある。(高崎)
- ・貧困の質は東京都とは違う。(加藤)

- ・土地の値段について、売りたい方と買いたい方の相場が合わず、なかなか家が建たない。ローンもなかなか伸びない。住宅の造成地が少ないので移住しにくい。大垣など西濃圏中心と比べると、池田町にはアパートが少ない。(石田)
- ・住んでみると、池田は住みやすい地域。地盤はナンバーワンと聞いたことがある。岩盤の上なので地震や災害的な意味でとても強いとか。そういうこともPRが下手なので知らない人も多い。(松本)
- ・幸せすぎるから人口減なのではないか。アパート代・電気代がいくらかかる等、結婚より先に生活費等現実的な面を考えてしまう。感情だけでは結婚できなくなっている。また、平均結婚年齢が上がっている。なんで結婚しないのか、それは結婚への魅力がないから。今の生活に満足しているのではないか。結婚や子どもをつくる楽しさを伝えたり教えたりすることが必要なのでは。結婚したまま働き続ける人が増え、そのまま子どもを産まない人も増えている。(松本)
- ・育児休暇を取りやすい環境になってきており、最近女性も働き続けるようになっているが、それが、残念ながら結婚・出産につながっていない。(国枝)(富樫)
- ・出産しようと思っている年代の人は、子育てが安心してできることや、出産しても働けるという安心感を重視している。(国枝)
- ・学校では、少人数教育や、学童や、0歳児の保育、夏休みの中に預かる寺子屋など、その点の柔軟な対応は、進んできている。(国枝)
- ・生活の環境としては、沿線住民の方から「養老鉄道を残したい」との声を頂いている。年間約600万人の利用者。利用時間の大半が朝と夕方。利用者の半分が学生。通学する子どもが減少すると、養老鉄道の利用者も減少していく。厳しい現状だ。(中澤)
- ・養老鉄道がなくなったら子どもたちの通学手段がない。子どものために絶対必要。(国枝)
- ・養老鉄道の存続は大前提。もし無くなったらどうなるのか…。(松本)
- ・岐阜では、揖斐からの名鉄が廃線になったことで人の流れが変わり、柳ヶ瀬の商店街などがぼろぼろになった。(富樫)

- ・池田町では、パークアンドライド、無料駐車場の整備を通じて通勤しやすい環境作りを進めてくれている。(中澤)
- ・池田町では、企業が海外へ出て行き、雇用も少なくなっている。核家族はどんどん増えているという状態。(松岡)
- ・池田町の企業で、仕事を持っているお母さん方が、会社の中の保育園で5時まで子どもを見てもらえて、パートでなくて、普通に勤められるという取組をすることができたら、勤めてみえる女性も、もうひとりぐらい子どもがいてもいいのではないかと、という考えにつながるのではないかと。(竹中)

○教育

- ・「目標とする大人がいる」の数値が減っているのを見ると、歴史的偉人物の教育を行うのはどうか。(加藤)
- ・昔の偉人よりも、身近な親など生き生き働いている大人の姿を見る機会が少なくなっていることが問題。親も、子ども、地域の高齢者も、いろんな形で子どもを育てていく。多世代の交流が大切ではないか。(小林)
- ・「地域ぐるみで子ども達が楽しみ活気づく取り組みや行事がある」で、地域の行事は1割以上増えている。にもかかわらず、「積極的に参加している」と思っている人の割合がそんなに変わらない。イベントが浸透していないのは問題。(加藤)
- ・学校では、福祉教育を一生懸命、小中高と一貫してやり始めた。競争から共生へ。これは今後の大きな柱になる。子ども達が医療や福祉に関心を持つようになり、担い手になっていく流れが必要。(小林)
- ・池田小学校だと1クラス40人よりも2クラス20人のほうが子どもを良く見ることができる。学年が上がっても少人数学級が望ましい。(国枝)
- ・山麓には古墳や古いお寺もあり、歴史的に勉強できる。雨天でも池田の歴史や文化を学べる歴史資料館があるととても良い。(国枝)

○医療・福祉

- ・要介護5でも、安心して1人1人が尊重されながら死ねる町にしたい。(小林)
- ・医療・福祉については、池田町は充実している。ただそれが他の町村と同じ内容で、池田町の方がこれはいいですよというようなことが言えないのではないかと。(馬田)

(岩谷座長)

はい、そろそろ時間となりましたので、「産業・観光」について事務局より説明願います。

(早田理事)

それでは、次のテーマに移ります。先ほどの資料を1枚おめくりいただきまして、「産業分析」というところをご覧ください。グラフがございまして。市町内総生産を見ますと、平成13年から24年にかけて、平成21年はリーマンショックの影響で落ちていますが、ゆるやかに右肩上がりに続いております。これは近隣の市町を見ても同じような傾向が続いております。では、就業者一人あたりの報酬額は、どうなっているのかといいますと、平成13年から24年にかけてこちらは右肩下がりが進んでおります。つまり、町としての総生産は成長しつつありますが、就業者の報酬として反映されていない。報酬が少ないために、消費市場が拡大していないと見られます。

これが全体像でございまして。では、各産業分野別に見るとどうなるのかについては、つい最近、総務省が発表しました、「地域の産業・雇用創造チャート」がございまして。これは約90種類ある産業について、それを稼ぐ力と雇用力の観点で分析したものでございまして。稼ぐ力とは町外から、金を引っ張ってくる力でございまして。稼ぐ力については、特化係数という考え方がございまして、これは地場産業の国内における強みを表したものになります。例えば、農業に従事している全国の人が1%だとします。一方池田町は町内で見ると2%いるとします。こうした場合、池田町の農業というのは全国に比べて2倍の人が従事しているということで、特化係数は2になります。つまり、特化係数が大きい産業は町として力をいれている産業だと言えます。

稼ぐ力と雇用力で、4つの分類をしてみました。右上、ここは稼ぐ力が強く雇用の受け皿となっている産業でございまして、ここについては今のままでも十分成長を続けていくことが考えられます。では右下、ここは稼ぐ力が弱い一方で雇用が多いという業種でございまして。ここについては、例えば外貨の獲得、技術開発や、マーケティングをしていくことが考えられます。左上、これは稼ぐ力は強いけれども雇用力、従事している人が少ない分野でございまして。ここについては、稼ぐ力はあるのでそこに従事する人を増やしていく、そのために人材育成や能力育成を行っていくことが考えられます。左下については、全部ががんばっていく分野になります。

もうひとつ考え方がございまして、経済を分析するにあたっては、産業を「基盤産業」と「非基盤産業」に分類することができます。基盤産業というのは、消費者・需要者が地域外におり、地域外からお金を稼いでくる産業のことです。主に製造業や、農林漁業、工業、宿泊業、IT業が該当します。例えば、町外からお客さんがたくさん来るラーメン屋さん、これも町外からお金を引っ張っていくことになりますので、主要産業になりえます。例えば、特別養護老人施設、町内の方だけではなく、町外の人が入ると言うことになれば、基盤産業になりえます。逆に非基盤産業というのは、そういった業種で働いている人を支える、例えば飲食店や、スーパーなどの小売店であることを指します。

特化係数が1を超える産業が基盤産業となります。地域全体の労働者数は、基盤産業の

労働者数に比例するという特徴がございます。大切なことは、域外からお金を稼ぐ産業がないと、いずれ頭打ちとなって、地域が衰退するということにございます。人口が減少している多くの地域は、基盤産業が衰退していることが多いです。したがって、基盤産業の労働者数の維持が、人口減少に歯止めをかける鍵になります。

では、池田町の場合どうなのか。右のページの図が、各業種別に位置を示しているものがございます。池田町において、稼ぐ力もあり、雇用の受け皿にもなっているものは、プラスチック製品製造業やゴム製品製造業といったものがございます。右下の雇用は多いけれども稼ぐ力が低いところは、社会福祉の関係の事業、ただし、これは全国的にそうです。左上の特化係数、稼ぐけれども従業者数が少ないところは、飲料・たばこ・飼料製造業や、家具・装備品製造業などがあります。

最後に「観光」のデータについて、紹介させていただきます。観光という視点で、池田町にいったいどこから訪ねてきているのか、それを表したものがこの図でございます。左側が休日、右側が平日です。「訪ねる」という考え方は、「滞在人口」というものを使っております。滞在人口とは、滞在時間が2時間以上の人口を指します。

池田町では、人口2万5千人に対して、平日の滞在人口は4万5千人、休日は4万2千人です。では、どこから来るか。平日、休日共に、県内の場合は、上位は西濃・中濃地域が占めております。県外の場合は、愛知県・滋賀県・三重県の近隣県が占めておりまして、県内が平日は97.5%、休日は94.1%、ということで、約95%前後が県内から訪ねてきている。こういう状況でございます。観光についての情報は、以上でございます。では引き続き、今度はこちらのテーマで、ご議論よろしく願いいたします。

(岩谷座長)

はい、それでは、グループごとをお願いいたします。

(グループでの協議)

○産業

- ・池田町の産業は下請けが少ない。一宮は繊維産業で末端まで仕事が流れてきた。池田町には、一宮のような、末端までお金を当分に分け合えるような産業・企業がない。(高崎)
- ・ハツシモのお米をハングライダーと一緒に飛ばしてお酒のPRを行った。(遠藤)
- ・ひと・まち・しごとの「ひと」はあまり心配していない。池田町内・周辺地域に多く人材がいるから。工場は製造業関係がいろいろある。プラスチックとか、食品関係もあるし、周辺の地域を含めていろいろ働く場所とか通勤先はある。(富樫)
- ・働いている人は5キロ圏内が80%。西濃圏がほとんど。県外からは少ない。(松本)
- ・プレミアム付き商品券は、「内需拡大」を掲げた政策だったが、実際大手スーパーにお金が行ってしまって、商店街の活性化につながっていないのではないか。そのあたりを

アンケートの分析をもとに検討したい。(松岡)

- ・池田温泉をもっと立派にする。脱衣所などの拡張、工事希望民間とのタイアップ。名古屋にある今池のサウナでは、池田温泉のお湯が利用されている。(竹中)
- ・お金が外から入ってくるのではなくて、お金を外に出さない方向を目指すのはどうか。外貨の3割がエネルギー代だが、例えば、郡上の石徹白では小水力発電をされていて、それは池田町でもできるのではないか。宮地小でも山から水を引いて水車で水力発電を実施している。(馬田)

○観光

- ・池田町には観光の資源や産業の資源があるけれども、これが顕在化されていない。観光資源を点から線にする、線から面にすることが必要。(岩谷)
- ・社会の誰に、どういうニーズを持った人たちに、ポイントを絞って戦略化して売るか。(加藤)
- ・お茶や酒蔵、あるいは古墳など、いろいろ資源はあるので、それを町内につないでいく、あるいはもう少し広域的につないでいき、全体的にある良い資源を、どういうふうにな手くPRしていくかを考える必要がある。(富樫)
- ・池田の特産物を、付加価値をつけてPRする。安心安全を売る。(小林)
- ・池田町の観光は他市町との連携がない。(加藤)
- ・JRのさわやかウォーキングなどでイベントがあると、1000人ほど参加者が来る。魅力的な地域になりつつあるが、観光スポット単体では人を呼びよせる力が無い。広域的な観光ルートが必要。(中澤)
- ・池田山の活用方法。池田山へ登山する道の整備はもとより、酒蔵体験やお茶摘み体験等を組み合わせたハイキングも有効。(中澤)
- ・ただあまり整備しすぎると今の自然が残らない可能性がある。(国枝)
- ・食事するところがない。お客さんが池田で食べてもらえず、外に出て行ってしまう。新しく経営者が来ても長続きしない。(松本)
- ・商工会として飲食店に特産品・独自料理を考えてもらっている。(松岡)
- ・池田輝政・父の墓のPRをもっと行って、観光地として盛り上げるのはどうか。(松岡)
- ・池田温泉や弓削庵など温泉があるというのが、池田町のメリット。せっかく池田町の温泉へ来て、それだけで終わるのではなくて、これもありますというなにかメリットがあるものを考えるのはどうか。(馬田)
- ・どこも同じような観光を行っているので、差別化・魅力化が大切。新たなものを開発するより、現在のもので発掘を。スカイスポーツは珍しいので、ハングラライダーをもっと活用すると良い。(松山)

(岩谷座長)

はい、それでは時間となりましたので、あとはグループの代表者から2つのテーマについて、5分程度で報告をお願いします。まず、Aグループの小林月子先生、お願いいたします。

(サンビレッジ 小林)

Aグループでございますが、子育て・教育・医療・福祉にて、非常に活発な意見が出ました。子育てや教育では、なかなか困った時に相談する人がいないという意見などがありました。やはり親も子も地域の高齢者も、いろんな形で子どもを育てていったらどうか、ということでございます。また、昔の大家族を懐かしむというのが、このグループではありましたが、一方、世帯で住めば住むほどトラブルが起きることもあったりします。各世代でいろんな知恵を出し合いながら、世代間の交流の中で子どもをみんなで養っていくのがいいなあ、ということでございます。

それから、医療や福祉については、みんなが安心して住めれば、医療や福祉に関心を持つようになって、ある種の担い手になっていくという流れが必要ではないかな、ということでございます。

また、産業ですとか、観光の意見もいただきました。確かに、池田町には観光の資源や産業の資源があるけれども、これが顕在化されていない。さらに、これが顕在化されていないだけではなくて、それを点から線にする、線から面にすることが必要ではないでしょうか。池田町の資源というのは確かに存在して、それはすごくいいものなのだけれど、こういう点で、あの検討の課題があるかなという意見です。点として線として面として、つねに、社会の誰に、どういうニーズを持った人たちに、ポイントを絞って戦略化して売るか、売っていくためには実体化していかなければならないのだから、それを持ったすごい産業に脱皮していく、という意見にみんなが集約出来たと思います。

(岩谷真海座長)

はい、ありがとうございました。それではBグループ、富樫先生お願いします。

(岐阜大学 富樫)

はい、お願いします。まず前半ですけれども、人口で転入数のデータがありましたが、なかなか家が建たないのはどうも土地の値段で売りたい方と買いたい方の相場が合わないみたいであり、ローンもなかなか伸びないという話がありました。一方で、住んでみるとやっぱりこの地域は、池田はいいところなので、最近女性も働き続けるようになったので、それは変わってはきているのですが、それが残念ながら結婚・出産につながっていないのは何故なのか。それは、先ほどのデータでもまだ検討の課題なのかもしれない。けれども、学校では、少人数教育とか、学童とか、その前の保育、0歳児の保育とかですね、その点

は進んできているので、まあよくなってきているのではないかなという意見がありました。それから、生活の環境としては、やはり養老鉄道を残したいというお話がありました。

次は、産業・観光で、こちらの方が、だいぶ話は多かったですけれども、工場はいろいろあるので、それから先ほどのプラスチックとか、食品関係もあるし、周辺の地域を含めていろいろ働く場所とか通勤先はあるのかなという感じでした。次は観光ですが、養老鉄道でもさわやかウォーキングとかイベントをされると、結構参加者が来られるようですし、魅力的な地域になりつつあるんでしょうけれども、もう少し、例えば池田山へ登山する道を整備すればいいのかもしれない、ただあまり整備しすぎると今の自然が残らない可能性がある、そのへんの課題もあるのかもしれませんが。あと先ほどの小林先生のグループと同じになるのですが、お茶とか、それから酒蔵とか、あるいは古墳とか、いろいろ資源はあるので、それを町内につないでいく、あるいはもう少し広域的につないでいって、その全体的にある良い資源を、どういうふうに上手く PR していくかが、今後の課題かなというお話でした。

(岩谷座長)

はい、それでは C グループ、勝野さん、お願いします。

(女性セミナー 勝野)

初めに子育て・教育・医療・福祉のお話ですけれども、今、子どもの成績が上位である秋田なんかは、大家族制度がまだ存続されていますが、我々の地域池田町では、企業が海外へ出て行き、雇用も少なくなっておりますので、どうしてもそれはなかなか難しい、核家族はどんどん増えているという状態です。それで、例えば池田町の企業で、仕事を持っているお母さん方が、会社の中の保育園で5時まで子どもを見てもらえて、パートでなくて、普通に勤められるという取組を、周りの町村よりも先駆けてすることができたら、勤めてみえる女性も、やはりもうひとりぐらい子どもがいてもいいのではないかと、という考えにつながるのではないのでしょうかという意見がありました。それと、福祉医療費の助成年齢というところで、18歳までとなっていますが、18歳までは無料ということになりますと、子どもを持てる親はそういうのにすごくメリットがあるのですけれども、持てない人にとってはというと、偏った予算になるという意見も、それもひとつの案として出ていました。それから、やはり池田町の場合は、医療・福祉の方は、今良くなっていますが、それが他の町村と同じ、メリットがないわけですね、池田町の方がこれはいいですよというようなことが言えないことが、大垣市の方へたくさん転出している数字を見ても、分かるのではないかと思います。

それから、産業分析の方ですけれども、やはり温泉があるというのが、池田町にはメリットがある。せっかく池田町の温泉へ来て、それだけで終わるのではなくて、これもありますというなにかメリットがあるもの、そういうのを考えてやってはどうかという意見が

ありました。

もうひとつは、プレミアム付き商品券というのが、池田町でございまして、10月末にどのように使われたかが分析されるそうですが、それが楽しみだと思っております。それから、他に案が出たのは、お金が外から入ってくるのではなくて、お金を外に出さない方向を目指すのはいかがでしょうかというものです。一番お金が出ているのはエネルギーの方ですけども、例えば、郡上の石徹白では小水力発電をしており、それは池田町でもできるのではないかというような意見もありまして、これは個人ではなかなか大変ですけども、そういうのも考えてみてはどうか、という意見も出ました。以上でございます。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。グループごとに、様々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。また、これを事務局の方でまとめさせていただいて、次のワークショップの方へ結びつけていきたいと、このようなことを思っておりますので、よろしくお願いをいたします。本日は、本当に長時間にわたりまして、ご苦勞様でございました。また次回は8月、半ばぐらいですね、上旬ぐらいまでに、会議の予定をしておりますので、その節にはまた、大変ご多忙でしょうけれども、ご参集いただきますよう、お願いいたします。本日の終わりの挨拶とさせていただきます。本当に今日はご苦勞様でございました。ありがとうございます。

(小川企画課長)

本日は本当にありがとうございます。今、座長より全て言っていただきましたので、これにて本日は終了させていただきます。今言いましたように、本日の内容をワークショップに生かさせていただきます、みなさまにもまたご連絡・報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。